

平成 31 年 (2019 年) (日刊)

「ライオン像」もエール

日鉄工材 旧直江津銀行で入社式

「ライオン像のある建物」として親しまれている上越市中央3の旧直江津銀行で1日、同市川原町の日鉄工材(同日、日鉄住金工材から社名変更・石川昌弘社長)の入社式が行われた。明治後期の市内最古の擬洋風建築の建物で、新入社員2人が社会人としての決意を新たにされた。

同社から車で5分ほどの場所にある旧直江津銀行は、6日から「ライオン像のある館」として一般公開される。同社は例年、本社会議室で入社式を行っていたが、社会人としての門出の式を思い出に残る場所で行うことで、地域や地元を誇りを持って仕事に励んでもらおうと、同所での入社式

を企画した。白い壁にアーチ形の窓、銀行時代の金庫や木製カウンタ、豪華な装飾の掛け時計などの調度品が並び、レトロな雰囲気の中、石川社長が新入社員の中村祐樹さん(18)と蓬田惟月さん(18)の2人に辞令書を手渡した。

石川社長は「これから会社生活を送る新入社員

の皆さんには、ルールを守る、挑戦する、健康管理の3つをお願いしたい」とあいさつ。また新入社員2人の高校の先輩でもある入社2年目の山本飛翔さんが「メモを取ること、報告・連絡・相談をすること、自分自身の行動に責任を持って」とアドバイスした。

新入社員の中村さんは「(旧直江津銀行)初めて来て、新鮮だった。正直言って足りないことはあ

るが、頑張っていきたい」。蓬田さんは「自宅が五智新町で、ここに来たのは小学校以来。思い出に残り記念になった」と話した。



ライオン像の館(旧直江津銀行)で行われた日鉄工材の入社式